

強制されるコミュニケーション能力とその受容をめぐる今日の課題

本論文の主題は、現代で外的コミュニケーション能力が求められているが、内的コミュニケーション能力も同じくらい重要性があることを明らかにすることである。現代では、就活や学校生活の場などの場面で外的コミュニケーション能力(対人でのコミュニケーション能力)が過剰に求められている。その一方で、内的コミュニケーション能力(自分自身とのコミュニケーション能力)にはあまり着目されていない。しかし、内的コミュニケーション能力をないがしろにすると、外的コミュニケーション能力の方に影響が出るばかりか、自己肯定感の低下などの問題を招く可能性があるのではないだろうか。

そもそも、内的コミュニケーションという言葉は船津衛氏の本の中で登場する言葉であり、他で多く使われている言葉ではない。しかし内的コミュニケーションにまつわる自己理解や自分とのコミュニケーションというテーマに関しては、過去ミードをはじめとして多くの研究者が議論している。自己とのコミュニケーションについての考えや理論は多くあるが、現代ならではの内的コミュニケーションの必要性や不足することの問題を指摘する研究が少ないようだった。そこで本論文では、内的コミュニケーションがなぜ必要か、不足することでどんな問題が出てくるかを示すためにコミュニケーションに関する文献を参考に研究を進めた。その結果、現代の(特に若者の)内的コミュニケーションの難しさや内的コミュニケーションと外的コミュニケーションの関わりをより深く理解することになった。

また、今を生きる若者のコミュニケーションに変化がみられていることがわかった。このことから、内的コミュニケーションが日本であまり普及していない背景には、日本の国民性や文化の影響、SNSを使用したメッセージのやり取りなどの新しいコミュニケーションの影響などがある以外にも、外的コミュニケーションの強制があるのではないか。海外などの自己を理解しやすい環境事例と比較することで、自己とのコミュニケーションの今後の課題や新しい方法が見つかるのではないかという考察になった。今後の課題としては、コミュニケーションという奥が深い領域なので、さらに研究すること。若い世代に絞らず幅広い世代にも着目することが検討される。